

萌芽的な研究をはぐくむ助成

聖心女子大学文学部教育学科 西原直枝

博士課程を修了し、研究者としての一步を踏み出した頃、笹川科学研究助成をいただきました。博士論文で取り扱った研究内容から、一步踏み出す機会をいただきましたこと、心より感謝しております。

私は室内の温熱環境が知的な作業を行う上での作業効率に影響があるのかどうかについて研究を行いました。その中で、特に、「自分の環境を調節できる」、ということが、知的な作業を、疲れずに効率よく行う上で、たいへん重要であるのではないかということに着目しました。省エネルギーと快適性を両立するために、個別空調のアイデアは室内環境や空調の研究分野には以前からありましたが、その効果について、熱的快適性や作業効率の測定を行うだけでなく、疲労についても着目し、具体的に定量化する研究はまだほとんどありませんでした。定量化するための被験者実験を行うためには、被験者にご協力いただく方への謝金をはじめとした実験の運用のための予算や、データの整理を行うための予算が必要でした。今から思うと、萌芽的な、また荒削りな研究だったかもしれませんが、助成をいただいたことで、自由に新たな挑戦を行う、大きな原動力となりました。

研究内容の一部は、国際会議の発表につなげることができました。雑誌等でお名前を拝見したことのある著名な研究者が、次々とポスターを訪れて、直接に議論して下さいました。この分野では、欧米での研究のほうが、一步進んでいることを肌で感じ、少し悔しい思いをしながらも、一方で、自分たちにしかない研究の特徴も明確になり、それが大きな自信になりました。研究を行い、その成果を発表することで、海外を含めた議論の場に参加し、技術にいかすことができるという実感をもてたことは、その後の研究活動を続ける上でも大きな転機となりました。感謝申し上げます。

地球温暖化には、人間の生活活動が大きな影響を与えていると考えられます。日常生活の中で、いかに省エネルギーを図ることができるのか、持続可能な社会を作る上で、様々なアプローチが必要となってくると考えます。持続可能な社会づくりに、貢献できるよう、今後も研究・教育に励んでまいりたいと思います。

これからも、笹川科学研究助成によって、若手研究者のチャンスが広がり、独創性や萌芽性、新規性のある研究が育ちますようにと願っております。